各部のなまえ

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、まちがった使いかたをすると、火災などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

●安全のための注意事項を守る

●故障したら使わずに、お買い上げ店またはテクニカルインフォメーションセンターに修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠注意　この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号	行為を指示する記号
指挟み	強制

⚠注意

下記の注意事項を守らないと、けがをすることがあります。

開脚してからビデオカメラやカメラを取り付ける

脚を閉じたまま取り付けると、転倒してカメラを破損したりけがの原因となることがあります。

積載カメラ質量を守る

強制

制限質量を超えると、三脚が倒れたりしてけがの原因となることがあります。

脚の出し入れ、エレベーターの操作には充分注意をはらう

指挟み

指などをはさみ、思わぬけがをすることがあります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

お買い上げ店、またはテクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有償修理させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：VCT-870RM
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- お買い上げ年月日

http://www.sony.co.jp/

お問い合わせ窓口のご案内

■テクニカルインフォメーションセンター
ご使用上での不明な点や技術的なご質問のご相談、および修理受付の窓口です。

製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合は、「テクニカルインフォメーションセンター」までご連絡ください。修理に関するご案内をさせていただきます。また修理が必要な場合は、お客様のお宅まで指定宅配便にて集荷にうかがいますので、まずお電話ください。

電話のおかけ間違いにご注意ください。

●ナビダイヤル・・・0570-00-0066
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

●携帯電話・PHSでのご利用は・・・0466-38-0253
（ナビダイヤルが使用できない場合はこちらをご利用ください）

受付時間：月～金曜日　午前9時～午後8時
　　　　　土、日曜日、祝日　午前9時～午後5時

お電話される際に、本機の型名（VCT- 870RM）をお知らせください。より迅速な対応が可能になります。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

SONY　3-866-291-**05**(1)

リモコン三脚

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

VCT- 870RM

特長

この三脚はビデオカメラレコーダーなどにお使いいただけます。

- パンハンドルのリモコンで、ソニーのビデオカメラレコーダーを操作（スタンバイ／ロック、スタート／ストップ、ズーム、フォトモードのオン／オフ）することができます。
- 水準器で正確な水平出しができます。
- 持ち運びに便利なキャリングバッグ付きです。

この純正マークは、ソニー（株）のビデオ機器関連商品が純正製品であることを表わすマークです。
ソニー（株）のビデオ機器をお求めの際は、純正マークもしくはソニーロゴタイプが表示されているビデオ機器関連商品をご購入されることをおすすめします。

使用上のご注意

リモコンについて

撮影が終わったら、必ずスタンバイスイッチを「LOCK」にしてください。「STANDBY」にしておくと、ビデオカメラレコーダーのバッテリーが消耗します。

持ち運びについて

使い終わったら、① ビデオカメラレコーダーをはずし、② 脚を収納し、③ パンハンドルの操作部を外側に向けてたたんでください。
ビデオカメラレコーダーを取り付けたままで、持ち歩かないでください。

お手入れについて

- 汚れたら、やわらかい布に中性洗剤溶液を含ませてふいてから、乾いた布でからぶきしてください。
- 海岸など、潮風の当たる所で使用した後は、乾いた布でよくふいてください。

主な仕様

積載カメラ質量	4 kg以下
パンニング角	360度
ティルティング角	前傾90度、後傾50度
リモコン機能	スタンバイ／ロックスイッチ、スタート／ストップボタン、ズームレバー（ワイド／テレ）、フォトモードボタン（オン／オフ）
外形寸法	全高　約1630 mm（開脚状態　エレベーター使用時） 縮長　約670 mm リモートコードの長さ　約350 mm パンハンドルの長さ　約320 mm
質量	約2 kg
脚段数	3段
エレベータースライド	約330 mm
付属品	取扱説明書（1部）、保証書（1部）、キャリングバッグ（1個）

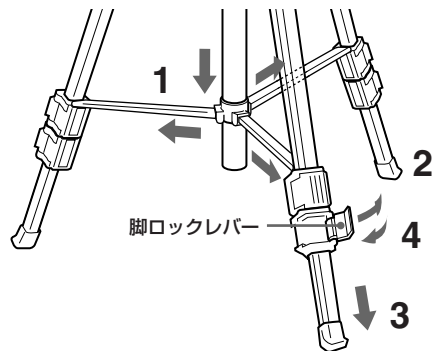
仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

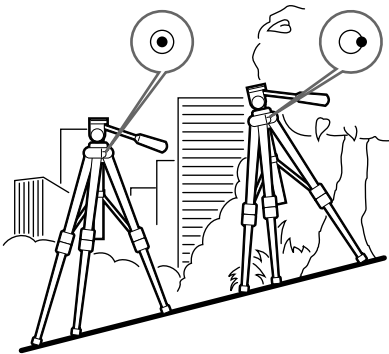
三脚を立てる

1 脚を広げ、ステーを押し下げる。

2 脚ロックレバーを矢印の方向に起こしてロックを解除する。

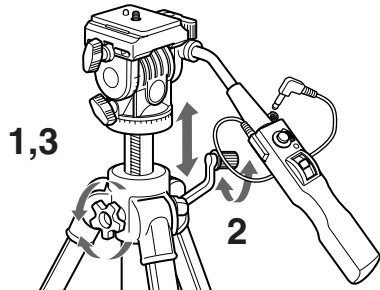
3 脚を希望の長さに調節する。

4 脚ロックレバーを矢印の方向に戻して固定する。

水平の調整をする

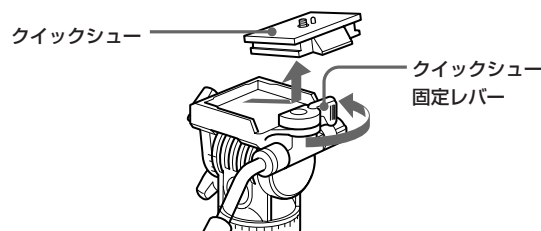
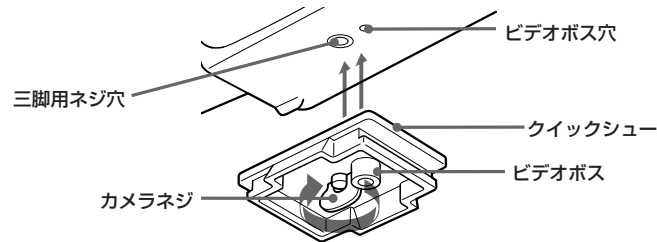
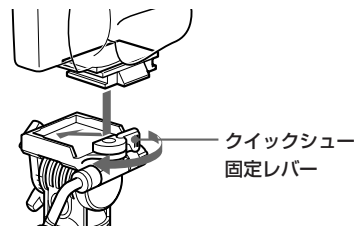
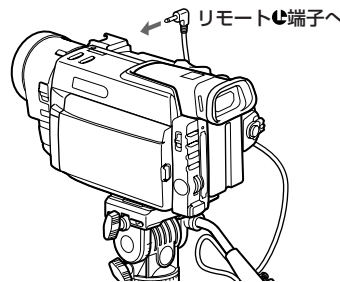
水準器の気泡が赤い円の中に入るように、脚の長さを調整する。

高さを調節する

1 エレベーターストッパーをゆるめる。

2 クランクハンドルを回して、希望の位置にする。

3 エレベーターストッパーを締める。

カメラを取り付ける

バッテリーやカセットは、ビデオカメラレコーダーを三脚に取り付ける前にセットしておいてください。

1 クィックシュー固定レバーを右側いっぱいに回し、クィックシューをはずす。

2 クイックシューのビデオボスとカメラネジを、ビデオカメラレコーダーのビデオボス穴と三脚用ネジ穴に合わせ、カメラネジをしっかり締める。

3 クィックシュー固定レバーを右側いっぱいに回し、クイックシューを三脚に取り付ける。
クイックシュー固定レバーを左側に戻して固定する。

4 リモートプラグをビデオカメラレコーダーのリモート◐端子に接続する。

これでカメラの取り付けは完了です。

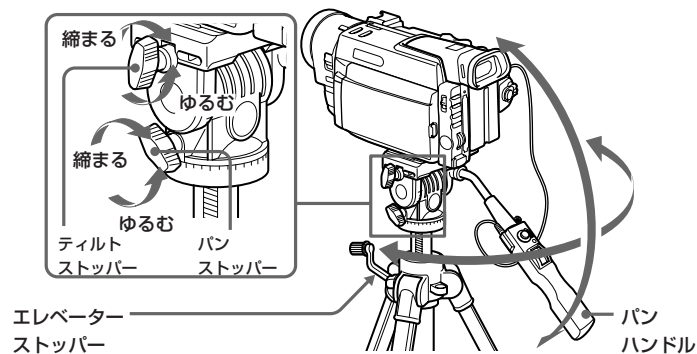
パンニング／ティルティング

エレベーターストッパーがしっかし締まっているか確認してから、パンニング／ティルティングは行ってください。締め方が充分でないと、画像がゆれる原因になります。

パンニング

カメラを水平方向に360°回転させて撮影することができます。
パンストッパーをゆるめ、パンハンドルを左右方向の希望の位置に動かし、パンストッパーを締めます。

ティルティング

カメラを上下に動かして撮影することができます。
ティルトストッパーをゆるめ、パンハンドルを上下方向の希望の位置に動かし、ティルトストッパーを締めます。

パンハンドルの向きを逆にする

パンハンドル固定ネジをゆるめて、パンハンドルとパンハンドル固定ネジを入れ換えて取り付けることができます。

リモコンで操作する

お手持ちのビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてお読みください。

ビデオカメラレコーダーを準備する

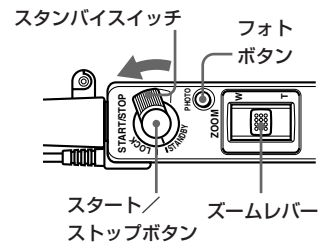
1 ビデオカメラレコーダーの電源スイッチを「カメラ」にする。

2 ビデオカメラレコーダーをスタンバイ状態にする。

パンハンドルのリモコンで撮影する

1 スタンバイスイッチを「STANDBY」にする。
「カチッ」と音がするまでスイッチをスライドさせて下さい。

2 スタート／ストップボタンを押す。
撮影が始まります。

スタンバイスイッチ
フォト
ボタン
START/STOP
LOCK
STANDBY
PHOTO
ZOOM
W
T
スタート／
ストップボタン
ズームレバー

撮影を止めるときは

スタート／ストップボタンを押す。
スタンバイ状態になります。

ズームする

ズームレバーをスライドする。

- T側（望遠）：被写体が大きく写る。
- W側（広角）：被写体が小さく写る。

お手持ちのビデオカメラレコーダーの機種によっては、ズームレバーをT（望遠）側やW（広角）側にさらに動かすと速くズーミングします。

フォトモードで撮影する

1. フォトボタンを軽く押したまま画像を確認する（フォトメモリー表示が出る）。
2. フォトボタンを強く押し込む（録画中は「フォト録画」が点滅する）。

ご注意

- フォトモードに対応していないビデオカメラレコーダーもあります。
- 画像確認（フォトメモリー）ができない機種もあります。
- 撮影スタンバイが5分以上続くと、自動的に電源が切れます撮影スタンバイに戻すには、スタンバイスイッチを一度「LOCK」に戻してから「STANDBY」にします。

撮影が終わったら

三脚のスタンバイスイッチを必ず「LOCK」にします。

ご使用にならないときは

リモートプラグは、リモートプラグホルダーに差し込んでおいてください。